

目的 住生活の改善手法として学校教育は大きな力を持っている。問題の多い我が国の住生活の改善を考えると、我が国の学校教育での住居領域の取り組みは不十分だといわざるをえない。住生活教育を充実させる方法の1つとして教育環境の向上があげられるが、我々はその要素の1つである教材に視点をあわせ、「空間を教室に取り込む手法」の開発に取り組んできている。これまでに、小住宅の空間演習シミュレーション教材を開発し、高等学校現場におけるこの種の手法の教育効果の有効性の確認や小住宅の演習教材のプランの多様化を検討してきた。今回はその一環として中規模住宅の空間演習シミュレーション教材の開発を行ない現場で演習を実施し、高校生の反応等を収集し、本教材の高校教材としての教育効果やその妥当性を中心に分析・検討することを目的とする。

方法 まず、中規模住宅の空間演習教材として、京都大学異研究室の2段階供給方式による住戸を転用させていただいた。そして京都府立N高等学校2年生女子生徒を対象に、住居領域の講義、小住宅の住み方演習実施後、本教材を使った演習を行なった。生徒の教材実施の状況および本教材に対する評価を知るため、アンケート調査も行なった。提出課題については完成度の点数化、パターン化等を試み、アンケート結果とあわせて本教材の教育効果やその妥当性について検討・考察した。

結果 N高校2年生女子を対象に実施した結果、①課題提出数145枚、アンケート回収数73票であった。②演習平均所要時間は102.9分であるが所要時間および完成度にはばらつきが見られた。③我々はこの種の教材の妥当性を評価する視点として、演習時間、学習効果、内容、教室内に取り込めるか、演習者の反応、将来への発展性等をあげたが、今回の検討ではいずれの条件も包括されているということが確認された。